

# 「キャリア総合Ⅱ」における情報通信技術 (ICT) を活用したグループワークについて

原 田 治 幸

Maximizing utilization of information and communication technology (ICT) use by workplace teams in pursuit of comprehensive career development

by  
Harada Haruyuki

## 要旨

本稿は、情報通信技術（以下、ICT と略記する。）の教育への活用が求められる中、キャリア教育における ICT 活用の可能性を探るために、「キャリア総合Ⅱ」の授業において、Google が提供するサービスやインターネットに接続可能なパーソナルコンピュータ（以下、PC と略記する。）、プロジェクタ、学生所有のスマートフォン（以下、スマホと略記する。）等の ICT を活用したグループワークの成果を検証し、自由テーマと固定テーマによるグループワークの効果を比較した。グループワークの効果の測定には、学生の振り返りシートによる評価、学生による発表の相互評価の結果を用いた。本年度の「キャリア総合Ⅱ」は、進路に関する必要な知識・スキルを身に付けることを目的に、社会の中の自己認識の可視化、社会に対する知識・理解の深化、就職試験や就職後に必要となる構成力・表現力・説明力といったプレゼンテーション力（以下、プレゼン力と略記する。）の向上、他者と協働した作業効率の向上をねらいとした。ICT を活用したグループワークは、このねらいを一定達成したと考えている。また、固定テーマ（新型コロナウイルス感染症）によるグループワークは、自由テーマによるグループワークより作業時間も短く、より高い情報収集力、分析力、チーム力等が求められる内容としたが、学生の取組姿勢、活動ともに向上が見られた。これは新型コロナウイルス感染症を固定テーマとしたことだけでなく、学生の段階的な ICT 活用力の向上、グループとしての Google スライド作成や発表への達成感などが1つの要因であったのではないかと考えている。一方、グループ内での認識の擦り合わせや発表活動などは対面での活動が効果的であり、従来の手法を基盤にしなから、学生の状況に応じて ICT を活用していくことが重要である。

キーワード：ICT活用、グループワーク、Google スライド、キャリア教育、  
プレゼン力

## 1 はじめに（高等教育における ICT 活用の動向）

これからの高等教育に期待される変化の一つとして、少人数のアクティブラーニングや ICT を活用した新たな手法の導入があげられている<sup>(1)</sup>。また、全国、山口県ともに令和元年度から令和2年度にかけて小・中・高等学校における ICT を取り巻く環境が大幅に向上し、特に、教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数が全国4.9人から1.4人、山口県4.2人から1.2人に改善していることを踏まえれば<sup>(2) (3)</sup>、ポストコロナを見据え、面接授業と遠隔・オンライン教育との双方の良さを最大限に生かし、初等中等教育と連携を図りながら、学生が自ら意欲的・主体的に学び、成長できるようにしていくことが必要である<sup>(4)</sup>。本学においてもこうした動向を踏まえて ICT を活用した教育に取り組んでいくことが、これまで以上に求められている。

## 2 キャリア教育の目標

「短期大学設置基準」第35条の2（社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を培うための体制）には、「短期大学は、当該短期大学及び学科又は専攻課程の教育上の目的に応じ、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるよう、短期大学内の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整えるものとする。」と定められている。本学のキャリア教育は、各学科の特色や就職時期等を踏まえ、1年次から2年次にかけて系統的、効果的にキャリア教育の科目を配置し、教育目標「1 より幅広い教養教育の下で、自主・自立・自学を身につける『全人教育』を目指す、2 専門教育の充実を図ることで、より実社会に役立つ専門知識の習得を目指す、3 幅広い教育機会を提供することで、より地域社会への貢献を図る。」の達成に向け、進路に関する必要な知識・スキルを身に付けられるように教育内容を構成している。また、保育園等におけるインターネットを活用した業務支援システムや AI による栄養管理をはじめ、今後学生達が社会人として活躍する場面においても、ICT は益々重要性を増すことが見込まれている<sup>(5)</sup>。そうしたことから、キャリア教育において ICT 活用の可能性を探ることとした。

### 3 下関短期大学の ICT 環境の現状

本学においては、コンピュータ教室等に設置された学生用 PC は、学生サーバーによってプロファイルが管理され、同一の学生アカウントであればどの学生用 PC でも同一のデスクトップ環境等が提供され、学生用 PC には Microsoft office がインストールされている。学生が学内でインターネットに接続するためには、学内無線 LAN が未設置であるため、コンピュータ教室等に設置された学生用 PC を利用する必要がある。また、グーグルの独自ドメイン (shimotan.com) を取得、すべての学生がグーグルアカウントにより Google が無償で提供する Google Workspace for Education Fundamentals (旧 G Suite for Education) を利用できる<sup>(6)</sup>。こうした ICT 環境を基盤にしながら、本学では、従来から多くの授業でコンピュータ教室を活用した教育活動が行われ、令和 2 年度には一定期間遠隔授業を実施、現在、一部授業においては Google クラウドルーム等の利用や Gmail による一斉メール配信などが行われるなど、ICT を活用した教育がしだいに拡大しているのが現状である。

しかし、コンピュータ教室の学生用 PC の設置台数 (Windows8 の PC が 28 台、Windows7 の PC が 2 台) 等によりコンピュータ教室の使用が困難な場合には、インターネットに接続するために学生所有のスマホを利用することとなる。その際、学生の機器所有と契約容量が課題となる。令和 3 年 6 月に実施した学生の通信環境調査 (調査対象は在籍する学生 119 人、調査回答者数 109 人) によれば、学生の機器所有率は、パソコン (カメラあり) 14.7%、パソコン (カメラなし) 16.5%、スマホ 98.2%、タブレット 11.0% であり、モバイル通信の契約容量は、20GB 以下 35.8%、20GB より大きく 40GB 以下 9.2%、40GB より大きく 70GB 以下 23.9%、70GB より大きい 1.8%、無制限 25.7%、その他 3.7%、自宅の wi-fi 環境は、ある 88%、なし 11% であった。ほとんどの学生がスマホを所有し無制限を含む契約容量であることから、学生の許諾があれば、学生所有のスマホを利用した学内でのインターネット接続も可能であると考えられるが、ICT を活用した教育を推進するためには早急な学内無線 LAN の整備が課題である。

### 4 「キャリア総合Ⅱ」の取り組み

「キャリア総合Ⅱ」は、保育学科 2 年生 45 人を対象とした、1 年次から続くキャリア教育のための科目である。本年度本科目では 2 章での記述を踏まえ、①社会の中の自己認識の可視化、②社会に対する知識・理解の深化、③就職試験や就職後に必要となるプレゼン力の向上、④他者と協働した作業効率の向上をねらいとした。これを実現するために表 1 により授業を進

表1 「キャリア総合Ⅱ」の授業計画概要

項目	活動概要	配当時間 (1コマ90分)	ねらい
1	自己紹介	1コマ	①
2	自分カーブ作成・発表、振り返りシート	2コマ	①③
3	自由テーマによるグループワーク・発表 振り返りシート	5コマ	②③④
4	固定テーマによるグループワーク・発表・相互評価 振り返りシート	3コマ	②③④
5	履歴書作成指導	4コマ	③

めた。本稿では、ICTを活用したグループワークについて考察するため、項目3、4について取り上げた。

#### 4・1 グループワークとICTの活用

本授業のグループワークでは、グループ内での意見交換、項目出し、情報収集、シート作成、発表、相互評価などの活動がある。ICT活用と対面・紙面の両方の利点を生かし、意見交換や項目出しは「関係チャート」と称した紙面のシートに対面により直接書き込み、情報収集とシート作成はインターネット検索とGoogleスライド、データの受け渡しと学生が作成した成果物の保存はGoogleクラスルームとドライブ、発表は対面、相互評価は紙面にて行った。相互評価は、Googleフォームを活用することもできるが、複数のグループを比較しながら評価するため、全グループの評価が一枚に収まる紙面でのシートを使用した。

また、コンピュータ教室の収容定員の関係から、インターネット検索やGoogleの各サービスの利用においては、グループ全体を前半と後半に大きく2つに分け、コンピュータ教室のPCによるインターネット接続と他教室での学生所有のスマホによる接続を併用した。

学生所有のスマホを使用することから、プレゼンテーション作成ソフトとしては、PCでもスマホでも利用可能なGoogleスライドを利用した。Googleスライドで作成・編集するデータはグーグルアカウントに紐づけされてGoogleドライブに保存され、同一のグーグルアカウントや共同編集を許可したグーグルアカウントであれば、PCでもスマホでも閲覧・編集等することが可能である。Googleスライドは、Microsoftパワーポイント程の機能はないが、Microsoftパワーポイントファイルとしてダウンロードすることができるなど一定の互換性があり、複数人で同時に編集できる、過去データの復元がしやすい、Googleスプレッドシートと連携しやすいなどの利点がある。なお、スマホでのGoogleクラスルームやスライドを利用するためにはアプリのインストールが必要であること、GoogleスライドではPC版のような編集機能がないこと、機種によってはアプリのインストール等が困難な場合があることにも留

意が必要である。



教員と学生とのデータの受け渡しには Google クラウドの機能を利用し、学生が作成し提出したスライドは自動的に教員の Google ドライブに保存され、提出日時も記録され教員の Google アカウントがあれば PC でもスマホでも閲覧等することができる。これは学生の成果物の整理・保存にも有効である。

#### 4・2 自由テーマでのグループワーク

学生に本活動のアジェンダとして以下を示し、活動に対する見通しを学生間で共有した。

- 1 テーマを1つ決める
- 2 テーマの中で関心のある人物を書き出す
- 3 その人物から線を引き関係事項を書く  
人物と人物を関係事項でつなぐ → 「関係チャート」作成
- 4 ウィキペディアなどのネット検索で人物、関係事項を調べる
- 5 2、3の人物、関係事項について Google スライドにまとめる
- 6 Microsoft パワーポイントによるグループ発表
- 7 振り返り

グループは、学籍番号順に3人の少人数編成とし、PC とスマホによるインターネット検索、Google スライド作成・編集の操作に慣れるためにテーマは各グループで自由に決めることとした。出てきたアイデアから3人に共通したテーマを作成するにはグループ内での調整も必要であり、かなり時間を要したグループもあった。15グループを前後半の2つに分け、コンピュータ教室でのPC利用と教室でのスマホ利用に分かれて行い、学生は1グループ3人が、「関係チャート」をベースにしながら、インターネット検索、画像収集、入力などの作業分担をしてスライド作成を行った。15グループの発表タイトルを以下に示す

- ・ドラマ ～メイちゃんの執事～
- ・Johnny's ～グループ同士の関わり～
- ・カルビー株式会社 ～歴代社長～
- ・スタジオジブリ
- ・ディズニー
- ・BIGBANG RADWIMPS YOASOBI
- ・YouTuber しばなんチャンネル
- ・スポーツ ～バレーボール～
- ・五条悟ってだれ？ | Ⅱ°)
- ・胸きゅん!!!!!! 
- ～独断と偏見で選んだ恋愛映画・ドラマおすすめランキング  菅田将暉特集…～
- ・名探偵コナン ～人物紹介～
- ・日清食品の歴史 ～ラーメン～
- ・スティーブ・ジョブズ
- ・Entertainer
- ・GAFA

#### 4・3 固定テーマでのグループワーク

新型コロナウイルス感染症をテーマとし、まとめ方の切り口である軸を各グループで設定することとした。グループは前回と異なるメンバーとし、人数も4人から5人1組の10グループとし、グループ内の人数を増やすことでより高い協働性が必要な編成とした。また、今回はより効率的・協働的に作業するために、新たにGoogleサービスの利点の一つでもある共同編集の手法を取り入れ、作業時間も4・2節の5分の3に短縮した。

本活動のアジェンダは以下のとおりである。

- 1 テーマ「新型コロナウイルス感染症」
- 2 軸を決める
- 3 線を引き主項目を書く 関係事項でつなぐ → 「関係チャート」作成
- 4 ウィキペディアなどのネット検索で主項目や関係事項を調べる
- 5 軸にそって関係事項についてGoogleスライドにまとめる
- 6 Microsoft PowerPointによるグループ発表
- 7 振り返り

グループごとの軸（まとめ方の切り口）には次のようなものがあった。

- |                    |           |
|--------------------|-----------|
| ・エンタメ              | ・自粛生活について |
| ・もうかった業界もうからなかった業界 | ・旅行について   |
| ・コロナワクチン           | ・下関市の対策   |
| ・もうかった・不況業界        | ・コロナの流れ   |
| ・オリンピック            | ・グッズ      |

「関係チャート」の作成においては次の手順等で作成するよう指示した。

- ① 主項目を出す
- ② 関係事項を書き出す
- ③ 関係を線でつなぐ
  - 強い弱い 重い軽い 深い浅い → 線の形、矢印、記号などを工夫
  - 取捨選択（使える or 使えない）
- ④ 重点項目、深掘り項目を決める ※メリハリ、「へえ～」は細部にある

Googleスライド作成においては、4・2節に加えてグループの中で1人がオーナーとなり他のグループメンバーを招待することで共同編集を行った。PCでもスマホでも招待は可能であり、Googleスライドのページごとに分担した作業などに適している。作業分担することで効率的・協働的に作成したグループと分担が不十分なグループではスライドの質、量、発表の出来栄にも差が生じた。

## 【固定テーマにおける学生によるスライド作成例】

コロナ禍での保育現場の工夫🙄🙄

◎今保育園や幼稚園ではコロナ対策を急入りしています。


例えば...

- ・登園時に検温と消毒を行う👩🏫👩🏫
- ・給食は向かい合わせ向き、無言で食べる👤👤
- ・部屋の入り口や玄関に消毒を設置する👩🏫
- ・登園時間をできるだけ分かれるよう組む👩🏫👩🏫

大学生の声は、、、

- ・若い世代ほど副作用が出やすいと言われていたため、発熱と倦怠感の症状で学校を休みたいくない。
- ・接種したほうがいいと思うけどまだ不安な面もある。
- ・今はまだ早く打ちたいとは思わない。
- ・コロナのワクチンの情報が少なすぎるから急いで打っても保証がない。

等々さまざまな声が上がっています。



得した業界

- 自転車関連…公共交通機関を利用する人が減少、自転車を使う人が増加
- IT企業…授業の代わりにZoomやLINE・Googleを利用する人が増加
- 動画配信…Hulu・Netflix等の利用者が増加
- ゲーム会社…Switch等自宅でできるゲーム利用者が増加
- フードデリバリー…外に行かなくても食べられる
- 小売業…外に行く回数を最小限にする為にまとめ買いをする人が多い
- ECサービス…気軽に買え、外出せずに買える物ができる
- 物流業…ネットでの購入が多いため運送業も活発になる
- 医療品関連…今の時期に必要なマスク・アルコール等

休館している施設

- 図書館
- 海警館
- 道の駅
- リフレッシュパーク
- 公民館
- 博物館



他のグループの発表については相互評価を行い、本科目の評価における資料の一つとともに、本章冒頭に記述したねらい、②社会に対する知識・理解の深化、③就職試験や就職後に必要となるプレゼン力の向上、④他者と協働した作業効率の向上を達成するための一助とした。また、評価については以下の表2の観点で行い、本活動の最初に学生に評価方法を明示した。スライド作成や発表、チームワークなどの望ましい活動の方向性を学生に分かりやすく咀嚼して示し、表2は、各観点について「大いにそう思う」から「まったく思わない」の5段階で評価し、表2中の※は10グループの他者評価の平均値である。

表2 固定テーマによる発表の相互評価 (2021.7.1 評価実施)

項目	観 点	ねらい	※
1	テーマ「新型コロナウイルス感染症」に沿った発表内容か	②③④	4.51
2	発表内容全体を通じて軸が貫かれているか ※首尾一貫しているか	②③④	4.10
3	「重たい内容」と「軽い内容」のバランスが、聴衆から見てちょうどいいか	③④	3.81
4	単なる項目の羅列ではなく、発表にストーリー性があるか	③④	3.89
5	発表の中に聴衆を引き付ける「目玉」が盛り込まれているか	③④	3.78
6	聴衆から見て、伝えたい内容が「分かりやすいスライド」か	③④	4.00
7	深掘するところとサラッと流すところの「メリハリのあるスライド」か	③④	3.86
8	分かりやすくハッキリした説明になっているか ※簡潔明瞭か	③④	4.03
9	グループで協力、分担して発表しているか。 ※チームワークはいいか	④	4.20



②③④のねらいについては、8割前後の評価であることから一定達成したと思われるが、3、4、5、7の項目については、更なる指導方法の改善が必要である。

#### 4・4 自由テーマと固定テーマの比較

4・2節の自由テーマによるグループワークと4・3節の固定テーマによるグループワークの取組姿勢と活動について、学生は振り返りシートにおいて、表3のように自己評価した。

表3 自由テーマと固定テーマによるグループワークの自己評価の比較

(自由テーマ：2021.6.2 評価実施、固定テーマ：2021.7.1 評価実施)

	自由テーマ	固定テーマ
項 目	取組姿勢	取組姿勢
・大変意欲的に取り組んだ	65.9%	70.7%
・意欲的に取り組んだ	27.3%	26.8%
・あまり意欲的ではなかった	6.8%	2.4%
・意欲的に取り組めなかった	0.0%	0.0%
項 目	活 動	活 動
・十分な知識や考え方を学ぶことができた活動であった	65.9%	73.2%
・ある程度の知識や考え方を学ぶことができた活動であった	29.5%	26.8%
・学ぶことの少ない活動であった	4.5%	0.0%
・ほとんど学ぶことのない活動であった	0.0%	0.0%

固定テーマによるグループワークは、自由テーマによるグループワークより作業時間も短く、より高い情報収集力、分析力、チーム力等が求められるが、学生の取組姿勢、活動ともに向上している。これは新型コロナウイルス感染症を共通テーマとしたことだけでなく、スマホ操作や Google スライド操作、情報収集や分析といった学生の段階的な ICT 活用力の向上、グループによる Google スライド作成や発表の達成感などが1つの要因であったのではないかと考えている。また、多くの学生が、Google スライドなどの Google が提供する各種サービスや PC・スマホなどの ICT を活用した授業に意欲的に取り組んだと実感している。

## 5 おわりに（下関短期大学のキャリア教育における ICT 活用と展望）

今後学生達が社会人として活躍する場面においては、ICT は益々重要性を増すことが見込まれており、キャリア教育においても ICT 活用の可能性を探ることが必要である。その際、情報収集や発表資料作成、データ共有などには ICT は有効であるが、グループ内での認識の擦り合わせや発表活動などは対面での活動が効果的である。従来的手法を基盤にしなが、学生の状況に応じて ICT を活用していくことでより高い教育効果が期待できると考えている。

また、1章で記述したように、今後充実した ICT 環境で学んだ学生の入学も見込まれるが、



